「外部との連携における教育相談・支援体制の充実に向けた取組」

○　県立視覚特別支援学校との連携（　小２名、中２名、高１名　）
- 年度当初に、各児童生徒の教育相談に、担任が訪問し研修する。
- ３校連携会議（　県立視覚と県立聴覚の先生に来校頂く。　）
  6/20（　視覚聴覚障害 中１名、聴覚障害 中１名　）
- H30～　学校訪問により、本校にて直接指導を仰ぐ。
  5/２３・12/３

○　県立聴覚特別支援学校との連携　（　中２名　）
- ３校連携会議　6/20
- 市障がい者支援課設置 手話通訳者による
  コミュニケーション支援開始　　10/11～　（　7回　）

○　市内コーディネーター会議　（　G /7ブロック ）
- 縦の連携（　幼から小へ、小から中へ 支援の引継ぎ　）
- 横の連携（　具体的実践例の共有　）・・ビジョントレーニング
  推進委員会での発信　実践発表

実践の成果と課題

成果

・県立視覚特別支援学校や、県立聴覚特別支援学校の先生から、指導やアドバイスを頂くことで、本校職員の指導力や意欲の向上に繋がった。

・ 子どもの実態や支援の手立てを市内ブロックの関係教員の間で共有することができた。

・ 自身の経験や、研修で得た情報を、市内ブロックのコーディネーターや他校の教師と共有することができた。

・コーディネーター同士の、つながりが深まることで、連携の範囲を広げることができた。

課題

・本校職員の指導力や意欲の向上は、当該クラスの担任や一部職員などにみられるが、学校全体へはまだ、十分に広がっていない。

・市内ブロックの間で共有できていることが、市全体ではできていない。市内全体への共有化へ向けた取り組みが必要である。

実践の中で、自分が学んだと思うこと

・ 多くの仕事を先輩コーディネーターのもとで、経験することができた。

・ 沢山の仕事を学んだが、自分の仕事として見通せない・動けないことが多い。

・ 課題解決の為に、相談・連携のできる仲間を持つことが大切。

・課題をよく整理し、連携したい相手と丁寧に情報を共有し、皆が同じ方向を向いて行動しなければいけない。

・ 校内や校外で支援できることを見つける目を養い、行動し、支援をつなぐよう働きかけなくてはいけない。

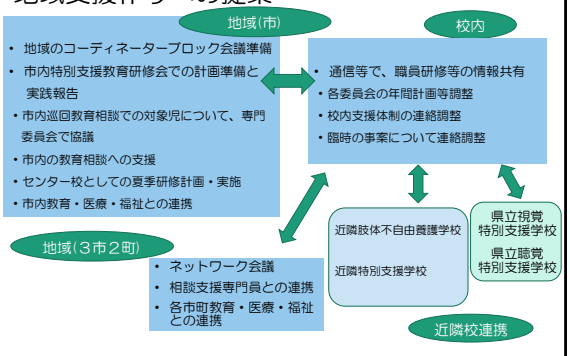
・ 仲間の苦労談や仕事の成果から、課題を共有したり、参考にしたりすることができた。

実践活動の今後に向けて

共有のための　自分改革

- コンサルテーションの視点で、主体的に行動を起こしてみる。
  （　課題に直面した時、同じ方向を向き共に考えようとする姿勢、まず動いて解決の糸口を探ろうとする姿勢等　）
- 自分の得意な分野から行動を起こす。　まずは校内支援。
  一緒に学ぶ視点を忘れず。

支援をつなぐ

- 互いの学びが広がる工夫
  （　校内支援部だよりの継続、教員同士の研修につながる支援　）

地域支援作りへの提案